

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

2019年

ホームページへGo!→
スマホで教室だよりが見られます



教室だより6月号

英語の力だめし

6月は英検®とTOEFL®の2つの英語のテストが実施されます。今回は、公文式英語を学んでいる方もたくさん受験されているこの2つのテストについてお伝えします。

「英検」は年間360万人が受験している、国内最大規模の英語検定試験です。5級から1級まで、細かく段階分けされているので、それぞれの学習段階において「身近な目標」としやすいテストです。

TOEFL®は英語を母語としない人向けにアメリカで開発されたテストで、現在130ヶ国以上の9000を超える大学や教育機関で入学選考基準として採用されています。その「小中学生版」がTOEFL Primary®、「中高生版」がTOEFL Junior®です。合格・不合格がないので、成長具合を確かめるツールとして、定期的にチャレンジされることをお勧めします。2020年度からは、小学3年生から「活動型」の、5年生から「教科型」の英語の授業が正式にはじまります*。中学校では翌2021年度から、英語の授業は英語で行うことが基本になるなど、英語に触れる機会、そして使う機会は、今後ますます多くなっていきます。

英語に自信を持ち、学習のモチベーションをさらに高める機会として、これらのテストをぜひご活用ください。

※「英検」は公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

*現在は「移行期間」として、全部または一部の内容が3年生以上において既に実施されています。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“「学年を越えて進む」ことで自信と余裕が生まれる”

子どもにとって、小学校の算数は勉強のゴールと考えるのではなく、中学、高校に進んで数学で苦勞しなくてすむような学習をさせてあげるべきです。中学生や高校生がいちばん勉強時間をとられている科目は数学だと言います。「数学さえなかったら…」とため息をついている生徒がたくさんいます。数学が不得手なために進路選択の幅をせばめている子どもが多い昨今、数学を得意科目としてもつことは大きな武器となることでしょう。

公文式では、小学生のうちから無理なく中学課程、高校課程の数学に進ませて、中学・高校という、より幅広く多様な内容と出合える時期に、自信と余裕をもって学校生活をおくってほしいと願っています。先へ先へと公文式で予習していることで学校の授業はよく理解できますし、家庭でも数学の勉強に費やす時間はうんと少なくてすむでしょう。そうして得られた時間で、他の科目の勉強や、クラブ活動なり読書なりに思い切り打ちこんでほしいのです。

2019年6月の学習日

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	△3	4	△5	6	7	8
9	△10	11	△12	13	14	15
16	△17	18	△19	20	21	22
23	△24	25	△26	27	28	29
30			□本市場教室学習日			
			△横割教室学習日			

本市場教室日 □

横割教室日 △

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

6月分の会費引き落としは5月28日(火)です。よろしくお願ひいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願ひます。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

*ゆき子の一言コラム

子どもに習い事を勧める親の考えはさまざまでしょう。「子どもに多くの体験をさせたい」「どんな才能があるかわからないから、いろいろなものに触れさせたい」「体力作りをさせたい」「精神修養の場を与えたい」「チームワークを学ばせたい」……。そのどれもが〈わが子を思って〉のことである。

でもその裏で、〈習い事＝ママの自由時間〉と考えるムキもあります。同じ習い事に通うママ同士、ゆっくりお茶したり、おしゃべりしたり、また一人でショッピングしたり。日ごろ忙しいママたちにとって、唯一ホッとできる時間。これも重々理解できます。理解はできるのですが、問題は、それが行き過ぎて〈習い事＝保育所〉になってはいまいか、ということです。例えば、水泳教室の最中、プールの見学席に座っていると、子どもの泳ぎを一度も見ずにひたすら知り合いのおしゃべりや読書・スマホに興じているママがいます。プールサイドから子どもが手を振っても気がつかない。そんなとき子どもは、全身ガックリして次の泳ぎに入っていく。習い事は学校と違って、親が子どものがんばりをしっかり見届けてやることのできる場です。子どもから遊びの時間を奪い、ボーッとする時間を奪ってまで習い事に通わせる以上、せめてそのがんばりを生で見つめて、しっかり受け止めてやるべきだと思います。

よく「本人が好きだといってるから習い事をさせている」という言葉を耳にしますが、そればかりを鵜呑みにして、習い事を子ども一人に預けてはいけません。その「好き」は、大人が自分の意思で習い事を選び、教室に通う「好き」とはワケが違うはず。その「好き」の前に、親に見ていてほしいから、そしてほめてほしいから、子どもたちは日々習い事に足を運ぶのです。子どもたちは子どもたちで必死にがんばっています。大好きなママやパパが「がんばれ」と言うから。「なんでもやってみろ」と言うから。それが将来につながるかどうかは、本人の才能はもろん、そばで見守る親の目のあたりに大きくかかってくるような気がします。

習い事によってもっとも削られるのは、実は家族の時間です。みんなで食事を摂ったり、TVを見たり、その日あったことを話し合ったり。家族とともに、ゆっくりと、ゆったりと暮れていくはずの時間が、いまどきの子どもたちにはあまりに少なすぎます。ときに親は、子どもがホッとできる空白を用意してやるべきなのだと思います。どんな習い事よりもその空白が、子どもの人間としての力を伸ばしてくれるのかもしれない。

公文学習について

宿題が多すぎると学校の宿題もあり、子どもも大変だと思うのですが？という親御さんにお答えします。宿題は無理なくできる量です。大体お渡しするのは、基本的に低学年は一日10枚、高学年はほとんどが5枚です。公文で宿題をさせる最大の目的は、学力の定着と学習習慣づけが主な目的です。宿題の量は、お子さまや保護者の方のご意見も伺いながら、一緒に決めさせていただきます。一日5枚ずつ宿題をする人もいれば、全く宿題をせずにルンルン気分に来る人もいます。でも、しない子に限って一目瞭然。進度が遅く時間がかかって先になかなか進めません。すべての子供達は教室でお勉強するのは好きなのですが、宿題はどの子でもやりたくないもの。でも、お母さんはなるべくたくさん枚数を勉強させたい、その為に親子喧嘩が絶えないとか。これではいけませんね。習い事も公文のお勉強も、毎日少しずつ積み重ねた方が力はつきます。また、基本的には教室で学習した課題をお渡ししますので、保護者の方が一から教える必要もありません。

毎日宿題をしているかどうかを気にしてあげるだけです。→要領のいい子は前やったプリントを丸写しします。そして、全部しっかりやったかの確認をしてください。→最初のページはしっかりやって、中間は抜いて最終ページだけやると手を抜いている子もいます。出来れば目の前で学習させれば問題ないのですが・・・

公文で宿題をさせる最大の目的は、しっかりと時間を計って、学力の定着と学習習慣づけが主な目的です。単にやらせているわけではないので、親御さんのご協力が大事です。

教室での決まりごと。

- ①はきものはきちんとそろえよう！
- ②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう！
- ③もちものには なまえ をかきましょう！
- ④でんわをかりたら かならず でんわ代10円ん いれてください！

横割り教室はエアコンがついていません。年々暑くなっていますが
水筒、保冷剤などで自衛して来室くださるようお願いいたします。